

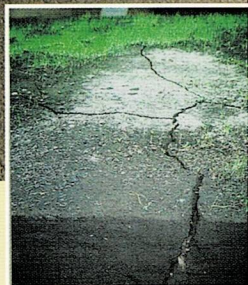
NPO



works Note



岩間美弓「全てのものが生まれ そして帰る」素材：黒土(浜松の土) 植物の種 抹茶  
AIPH国際コンテスト 名誉賞・優秀賞受賞



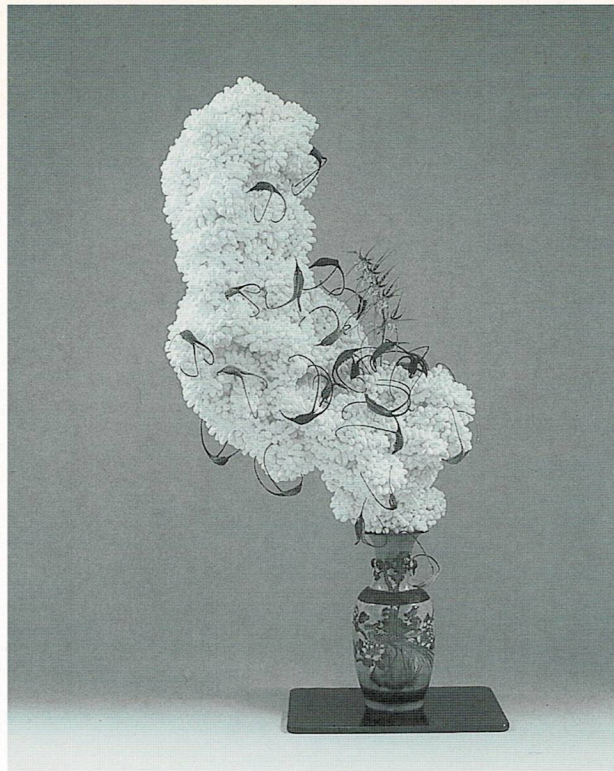
一週間後 土のひび、白カビ、そして無数の植物の発芽が見られた

No.12

# いけばなミュージアム

山内 瀬舟

Vol ②



### ▲襲来

膨れ上がるパフに一つのごまが蟻のように群がる様は一見気味が悪いかも。一つのごまが息を吹き返し、動きだしてしまいました。  
花材：植物パフ、つのごま、ブラッシア（H16年制作）



### ▲なにもかも！

花材：植物パフ、ニガウリ、割れた壺（H15制作）

（やまうち こうしゅう）

創美流華道教授、古流脩静庵師範、眞創フラワーアレンジメント本部講師、(社)帝国華道院正会員、東京都花道協会評議員、東京都花道協会認定教授、NPO法人いけばなworks事務局長

## イベント予告



### 第二回 近江神宮の森 野外現代いけばな展

### 開催決定！

本年5月1日に行われました「近江神宮の森 野外現代いけばな展」では、42名もの作品が境内地神苑に展開され、地元各紙に紹介されるなど、お陰さまで盛況のうちを終えることができました。

来年度も「第2回 近江神宮の森 野外現代いけばな展」としての開催が決定致しましたので、日程要項をご案内させていただきます。皆様のお参加をお待ちしております。

【日時】平成17年5月3日(火)～5月8日(日)（※3日公開いけこみ）

【会場】近江神宮 境内（滋賀県大津市神宮町一一一）

【いけこみ】平成17年5月2日(火) 午後より

5月3日(火) 午前7時～午後4時：公開いけこみ

【あげ花】平成17年5月8日(日) 正午より

【共催】近江神宮、NPO法人いけばなworks

【後援予定】未定（産経新聞、京都新聞滋賀本社、びわこ放送、花卉園芸新聞社、日本女性新聞社、フーリススト、等を予定）

【実行委員】飯尾しづ子、福永八千代、山内瀬舟、和田高甫（※50音順）

【開催内容】出品予定数約50～100点の作品を境内各所に野外展示する。

・いけばな展開催奉告祭の実施：平成17年5月3日(火) 午後4時半

・懇親会の開催：平成17年5月3日(火) 午後5時 近江勸学館大広間にて

【参加資格】不問

【作品について】

作品は、神社神域という場を考慮し、政治的、宗教的、もしくは人体にかかわる作品をご遠慮頂ければ他は問いません。終了時に現状回復とします。  
※追って出品依頼状をお送りさせていただきますが、詳細希望、出品希望の方は事務局までお問い合わせください。



社団法人 華道末生流 総家  
家元 和田高甫

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 2-5-15  
Tel (06)-6231-1881 Fax (06)-6231-4127  
(URL) <http://www.ikebana.co.jp>  
(E-mail) [info@ikebana.co.jp](mailto:info@ikebana.co.jp)

『藤と求婚』

『古事記(こじき)』中巻の応神天皇の巻には神々の求婚の話が見える。

伊豆志大神(いづしおほかみ)の娘である伊豆志袁登売(いづしをとおめ)出石乙女(いしおのこ)をたくさんの神々が求婚したという。中でも秋山之下氷丈夫(あきやまのしたひをとこ)・春山之霞丈夫(はるやまのあきかすみをとこ)という神々は兄弟でプロポーズしたのである。

兄は「身の高(たけ)を量(はか)り、甕(みか)の酒を醸(か)み、山河の物を、ことごとく備へ設け」て「へうれづくVをしよう」と宣言した。

「身の丈を測る」のは宮中に伝わる八節折(よおり)Vや端午(たんご)の節供の背比べを思わせ、祝福のまじないと思われる。「酒を醸(か)」むとは八醸酒(かもしぎけ)Vを作ったことで、神酒として捧げるものであり、「山河の物」を「備え設け」というのは神饌(しんせん)神々へのお供えを、用意したということである。「うれづく」は賭(か)け)だという。一種の占いであろう。兄は伊豆志袁登売を神として祀ろうとしたものと思われる。



これに対して弟は母に相談している。そこで母は藤葛を用いて「衣(きぬ)・褌(はかま)・襪(したぐつ)・沓(くつ)」を一晚で作ってしまう。

するとこれが藤の花になったという。また藤の幹で弓を作り、藤蔓(ふじづる)弦を張り、枝で弓を作った。そしてこの「弓矢」を伊豆志袁登売の廁(かわや)に立て掛けたのである。これは賀茂の神が丹塗りの矢と化して乙女の所へ通ったという神話とも共通する内容なのである。

さて伊豆志袁登売の反応はどうであったか。『古事記』は「その花を異(あや)しと思ひて、将(も)ち来る時に、その嬢子(をとめ)の後(しり)に立ちて、その屋に入るすなはち婚(まぐはひ)しつ。」と記す。つまり伊豆志袁登売が不思議に思つて藤の花を持ち帰る際に春山之霞丈夫も同行し結婚してしまつた、というのである。

これによって兄は神に仕える者として、弟は神そのものとして伊豆志袁登売に接したということが解るのだが、藤の花が持つ豊穰感が説話を支えているのが興味深い。

イベント予告  
箱根神社  
野外現代いけばな展  
開催決定!

鎌倉宮での野外現代いけばな展の終了後、関東でのイベントがなくなっておりましたが、この度、箱根神社にご協力を頂き、標記の華展の開催が決定いたしました。

開催地は芦ノ湖を眼下に見下ろす箱根神社です。今回はその境内地のなかでも、芦ノ湖の湖畔部分での作品展開を試みたかと思っております。要項等は次の通りです。

【日時】平成17年8月20日(土)～8月21日(日) ※20日公開いけばな(会場)

【会場】箱根神社 境内(神奈川県 箱根町)

【いけばな】平成17年8月20日(土) 8時～15時(10時～14時 公開いけばな) 14時～展示

【あげ花】平成17年8月21日(日) 15時～17時

【主催】NPO法人いけばなworks

【後援予定】未定

【実行委員】小邑理晴、杉崎宗雲、山本修子、横地画抱(※50音順)

【事務局】山内瀬舟、杉崎宗雲 Jr.

【開催内容】出品予定数約20～50点の作品を境内各所に野外展示する。

・いけばな展開催奉告祭の実施：平成17年8月20日(土) 15時

【参加資格】不問

【作品について】

作品は、神社神域という場を考慮し、政治的、宗教的、もしくは人体にかかわる作品をご遠慮頂ければ、他は問いません。終了時に現状回復とします。

※追って出品依頼状をお送りさせて頂きませんが、詳細希望、出品希望の方は事務局までお問い合わせください。



社団法人 華道 瑩心会

東京都渋谷区恵比寿南1-12-1 ☎・FAX03 (3713) 3730  
http://homepage2.nifty.com/eishinkai/

神 社 会 館

寸 女 子

代表 山本修子

座間神社 神社会館

〒228-0027 神奈川県座間市座間1-3437  
TEL 046・251・0245(代)/FAX 046・256・7731  
E-mail jinja@zamajinja.or.jp



# 浜名湖花博 大地の恵み

## 現代いけはなアート展



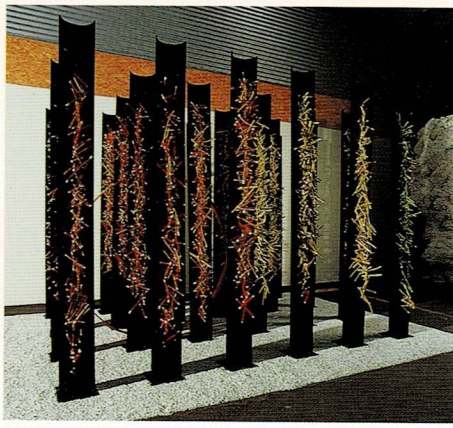
静岡県浜松市で開催されたしずおか国際園芸博覧会「浜名湖花博」は16年度最も注目されたイベントでありましたが、花博のメインパビリオンのひとつである国際花の交流館において、9月4日(土)～12日(日)の9日間、標記の現代いけはなアート展が開催されました。本展にはいけばな、アレンジの垣根を超えた38名35点の作家たちが「大地の恵み」をテーマとしてそれぞれの作品世界を展開し、本展開催中の博覧会入場者数は9日間で262,418名、そのうち交流館へは125,186名が来場しました。会期中に総入場者数は400



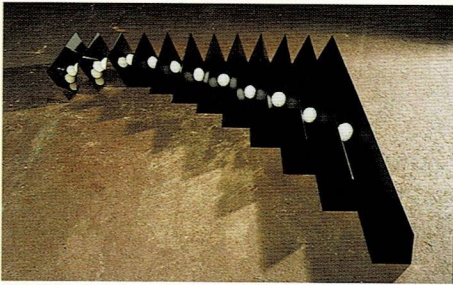
木下艸雲

万人を突破(花博終了時は約530万人以上の入場者数を記録)するなど、猛暑のなか、沢山の人が詰め掛けました。同時に開催された第21回AIPHコンテスト(AIPH、本部オランダ・ハーグ市 園芸博覧会開催規約で、国際園芸博覧会の中心的なイベントとして位置づけられているコンテスト)において、35作品中31点が入賞(金、銀、銅賞)し、中でも岩間美弓氏の作品(表紙参照)は金賞、優秀賞、さらには名誉賞(賞金10万円)に輝き、審査講評では「積み重ねられた黒ぼく土のベースの上に、草花の種がまかれていて、『大地の恵み』というテーマに沿った『全てのものが生まれ、そして帰る』というコンセプトが明確に表現されている。ややもすればクラフト的な作品が多い中で、ひとときわ造形的にもすぐれており、土の材質感と共に生命の重みを感じさせる、完成度の非常に高い作品である」とあり、多方面に感動を呼びました。

後援 花卉園芸新聞社、日本女性新聞社、草土出版「フラワーショップ」 撮影 川中啓一



岩田佳川



和田高甫



安藤由香、加賀友紀子、菊池広美、豊田文香、平田さつき、横山理恵子



▶会場寸景



▲いけばなworksブース



▲華道瑩心流ブース



▶未生流総家ブース



▶創美流華道ブース



本展会期中、国際花の交流館バザールスペースでは、9月4日(土)～10日(金)の7日間PRブースが設置され、華道瑩心流、未生流総家、ローヤルフラワースクール、創美流華道、いけばなworksの5流派が資料やパネルの展示などを行いました。なかでも、華道瑩心流とローヤルフラワースクールでは無料体験を開催し、いけばなとアレンジメント双方とも、はなをいける楽しさをプレゼントし、沢山の方々が楽しみ、賑わいをみせていました。

## 会期中 PRブースも併催



芳埜理鳳／広瀬理晶



飯尾美雲



佐藤理典／中村理節



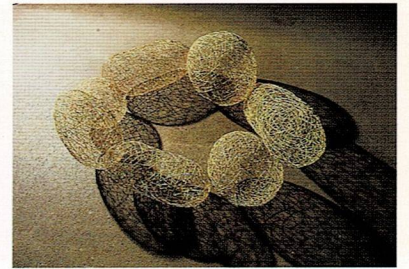
小邑理晴



鈴木理美

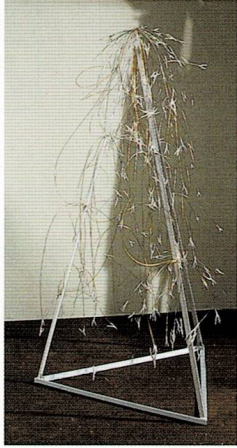


桑折理菜菜／鶴納理幸

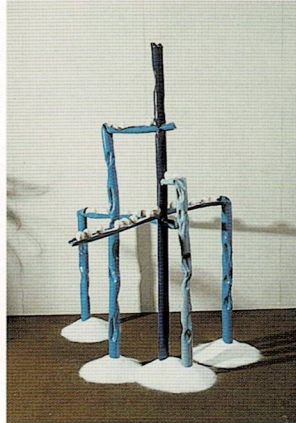


児玉香蓮

尾崎雅子



富永莊雲



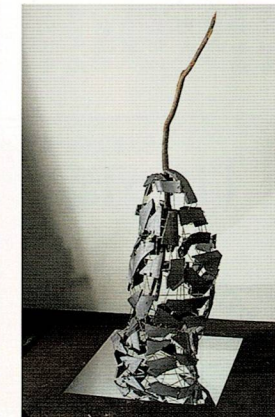
小倉眞香



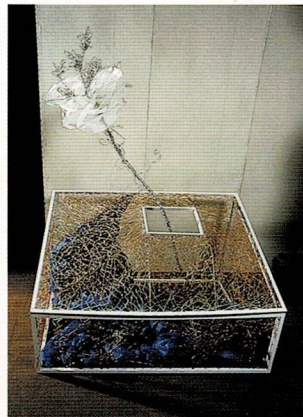
神澤映薫



杉田白雲



内山寿峰



熊野一虹



江原京子

# 浜名湖花博

## 大地の恵み現代いけはなアート展 パブリシティ



浜名湖花博  
現代いけはなアート展  
パブリシティ

### 自然素材集かし味わい

## 「大地の恵み2」始まる



植物加工し前衛的  
交流の館

「大地の恵み2」は、自然素材を加工し、前衛的な表現を追求した作品が数多く展示されている。会場には、植物の繊維や花びらを用いたアート作品が並び、訪れる人々の目を惹きつけている。

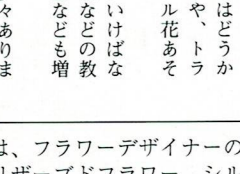
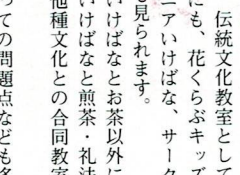
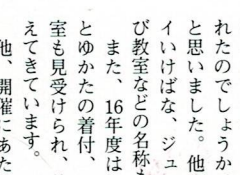
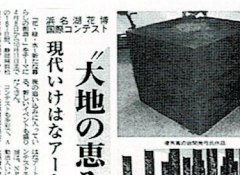
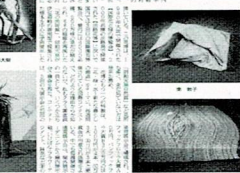


中日新聞(県内版)  
平成16年9月5日号

本展は地元各紙をはじめ、雑誌等多くの紙面に掲載されました。ここではその一部をご紹介します。

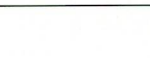
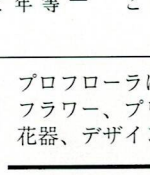
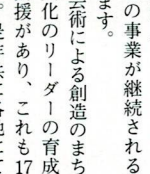
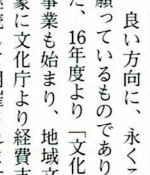
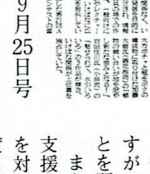
### 大地の恵み 現代いけはなアート展

秋色に染まる花博会場  
「コンテストもヒートアップ」  
かたじけなく好評



### 浜名湖花博

現代いけはなアート展  
パブリシティ



日本女性新聞 平成16年10月1日号

花井園芸新聞 平成16年9月25日号

### 総合 SOGO

## 静岡新聞

### 自然の恵み花や緑で表現

花博「大地の恵み2」始まる

静岡新聞  
平成16年9月5日号

## 文化庁委嘱事業 伝統文化 子ども教室事業について

文化庁の事業として、(財)伝統文化活性化国民協会(会長・理事長 平山郁夫)の受託事業として国よりの助成がされていますが、平成15年度予算額十億円、平成16年度予算額十億三千六百万円、17年度概算要求額十億六千万円と年々増額され、採択団体数も平成15年度の約千八百が16年度は約二千団体となっています。

そのうち華道・いけばなの分野では、平成15年度は約五百件(茶道を併催している教室を含む)の採択が、16年は約三百五十と減少。これは、新規申請のみ採択とされた為、17年度の方針は未定です。15年度に比すれば16年度の採択は流名を冠しないいけばな教室や、連盟等の主催割りあいが増えていますが特に、大阪府花道家協会は府下四箇所での採択がされていますし、学校華道部や公務員連盟などによる採択などもあり、幅が広がっているように思われます。

流派別では、流名が判明している所では池坊の七十二、小原流の四十七、龍生派の十八、草月十二、一葉式の十四、古流松蔭会の八、創美流華道の七、以上の採択と古流は正しくありません。(※数は正確でないことがあります。)

また、フラワーアレンジではないのですが、ジュニアフラワー教室の名称も見られます。いけばなよりも子どもを集めやすいと見た上でつけられたのでしょうか、伝統文化教室としてはどうかと思いましたが、他にも、花くらぶキッズや、トライイけばな、ジュニアいけばな、サークル花あそび教室などの名称も見られます。

また、16年度はいけばなとお茶以外にいけばなとゆかたの着付、いけばなと煎茶・礼法などの教室も見受けられ、他種文化との合同教室なども増えてきています。

他、開催にあたっての問題点なども多々ありますが、良い方向に、永くこの事業が継続されることを願っているものであります。

また、16年度より「文化芸術による創造のまち」支援事業も始まり、地域文化のリーダーの育成等を対象に文化庁より経費支援があり、これも17年度も継続して開催されます。是非共に各地にて参加申請をしてみてください。

### 伝統文化と新しい文明の研究機構

## 「にっぽん文明研究所」

代表 奈良泰秀

“いけばなを通じて自らの精神世界を確立する”ことを目指す華道講座  
「にっぽん文明研究所」華道講座  
かたちを超え 自由に 創造的に 個性的に 自分の花をいける

事務局 〒222-0034 横浜市北區岸根町681  
TEL 045 (481) 9361 FAX 045 (491) 7461  
E-mail info@nippon-bunmei.jp http://www.nippon-bunmei.jp

プロフローラは、フラワーデザイナーのためのドライフラワー、プリザーブドフラワー、シルクフラワー、花器、デザイン資材のお店です。

## PRO FLORA

### 有限会社 プロフローラ

〒162-0067 東京都新宿区富久町13-14  
phone:03-3350-8757(代表) fax:03-3350-6638  
http://www.pro-flora.com



# 連載 『いけばな流派』

平成15年7月号より、雑誌歴史研究（発行部数一万部 A5版 月刊誌）での『いけばな流派』もおかげさまで連載を重ねており2年目の継続連載をしております。

本誌は歴史愛好家を中心として全国の多分野の読者に親しまれています。読者へさまざまないけばな流派を紹介すると共に、御流儀の足跡を辿る資料ともなりたく思っております。内側だけでなく、分野の壁を越えた外部への発信として、是非ご活用下さい。

詳しくはお問い合わせください。

# 連載 『いけばなヌーベル・ヴァーグ』

フラワーデザイナーや園芸家、生産者、花屋、花愛好家などに最新トレンドを発信し続けている「フラワーショップ」（発行部数六万部 月刊誌 A4変型版 カラー八十頁立て）では平成16年4月号より、毎月カラー見開き2頁にて様々なスタイルで活躍するいけばな作家を紹介しています。

既刊、予定も含め登場されます先生方を御紹介致します。是非誌面を御覧頂きたく存じます。

- 16年4月号 和田高甫（未生流総家）／渡邊華靖（創美流華道）
- 5月号 伊藤麗花（小原流）／岩田佳川（小原流）
- 6月号 寺田美恵子（竹青華道会）／福永八千代（小原流）
- 7月号 マッドジョンソン（アーティスト）／芦田一寿（華道遠翔）
- 8月号 木下岬雲（華道堂心流）／岩淵成萌（成月流）
- 9月号 佐藤華琳（道風流）／東 敦子（小原流）
- 10月号 手嶋敏和（いけばな京花傳）／尾崎雅子（小原流）
- 11月号 小山法重（華道表現流）／山田尚俊（天和華道）
- 17年1月号 松本 司（京都未生流）／窪田穂蘭（創美流華道）
- 2月号 塚越応鐘（いけばな松風）／和田俊雪（龍生派）
- 3月号 長井理一（古流松藤会）／小野村悠愛（春日流瓶花）
- 4月号 大坪光景（龍生派）／上野理彰（古流松藤会）

# 連載 『紙上いけばなギャラリー』

業界大手の新聞社である花卉園芸新聞（発行部数三万部 全国紙 旬刊）において、毎月一回、いけばな作品の連載をしております。本年度連載二年目となり好評連載中です。作品とともにコメントを掲載しており、どなたでも参加出来ますので、是非とも先生の作品を御紹介ください。詳細はお問い合わせください。

# 新企画

月刊『りぶる』新連載  
～現在に活躍する華道家  
フラワーアーティストたち～

本会では、いけばなの広報、宣伝などを通じて様々な形での社会発信を行っておりますが、自民党女性誌『りぶる』（発行部数 三十万部 月刊誌 AB版カラー八十二頁）の誌面において、いけばな・フラワーアーティストの紹介が連載開始となりました。全国の華道家やフラワーデザイナーをカラー1頁で紹介してまいります。

本誌は女性のための政治・生活情報誌として後援者や党员のみならず、大型書店（八重洲ブックセンター、三省堂書店、旭屋書店等）でも一般販売されており、発行部数は群を抜いております。花を通じて、日本の文化が活気づくよう、連載して参りたく思っています。16年10月号より連載開始、2年間の連載予定ですので、是非誌面にご登場下さい。詳しくは事務局までお問い合わせください。

- 16年10月号 和田高甫（未生流総家）
- 11月号 長谷川溪風（創美流華道）
- 12月号 木下岬雲（華道堂心流）
- 17年1月号 渡邊華靖（創美流華道）
- 2月号 福永八千代（小原流）
- 3月号 山本修子（小原流）

# 子どもゆめ基金助成活動 日本伝統文化 茶華道レッスン 報告

夏休み子ども1日体験レッスンとして、子どもゆめ基金（独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター）よりの助成認可を頂いたいけばな works 主催の「日本伝統文化茶華道レッスン」を8月4日（水）・5日（木）の2日間、創美流華道會館にて開催しました。住空間、生活環境の変化により、子どもたちが普段なかなか触れることが出来なくなってきた伝統文化をもっと身近に体験してもらおうと、小学1年生・高校3年生までのを対象に定員20名として2日間の合計32名の参加のもと、午前はいけばなの基本を教授。畳の部屋で日本の文化を体験した子どもたちは、またやってみたいと、目を輝かせていたのが印象的でした。

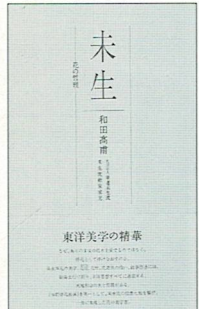


レッスン終了後の記念撮影

# BOOK紹介

## 未生 ～花の哲理～

「東洋美学の精華」として、このほど未生流総家元 和田高甫著による本が発行されました。江戸時代に記された未生流の伝書には、「本朝挿花百鍊」を第一として、華術「三才之巻」「草木養之巻」「体用相応之巻」「規矩之巻」「原一施転之巻」「明空紫雲之巻」「未生自然句之巻」が存在し、本書はこれらの古い伝書を深く理解できるように1冊にまとめられており、レクチャー。未生の理「レクチャー・花道具扱い・飾付まで、モノクロ250頁にわたる花の美学書となっております。創元社発行 定価（本体2,000円十税）



花人間になれる花情報誌  
**FLOWER**  
S H O P

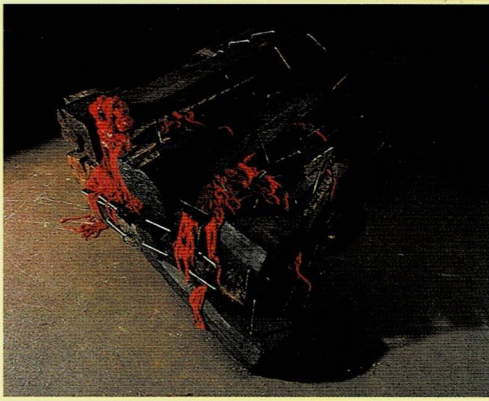
榊草土出版 フラワーショップ編集部  
〒161-0033 東京都新宿区下落合4-21-19 目白LKビル  
TEL 03 (5996) 6601代/FAX 03 (5996) 6606  
<http://www.sodo.co.jp/>

インターナショナル花の専門学院  
**マナコフラワーアカデミー**  
学院長 真子 やすこ

六本木スクール  
〒106-0032 東京都港区六本木3-1-25 六本木シティビル 3F  
TEL 03 (5563) 7844/FAX 03 (5563) 7845

町田スクール・本部事務局  
〒194-0013 東京都町田市原町田4-7-12 イコー第2ビル 3F  
TEL 042 (726) 1187/FAX 042 (726) 1283

熊野 一寛



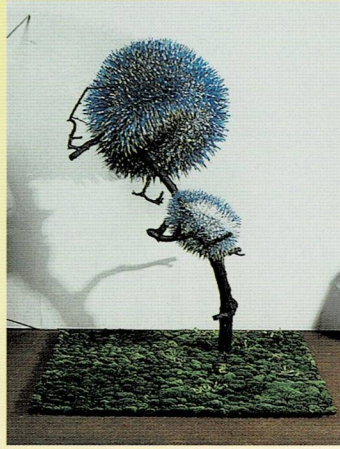
東 敦子



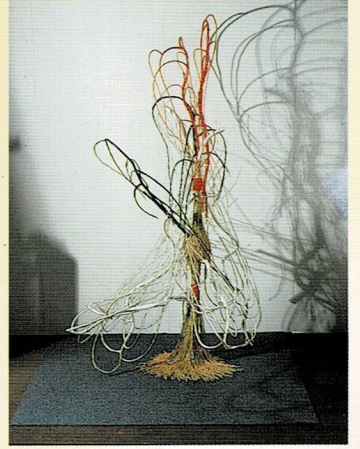
加藤 大樹



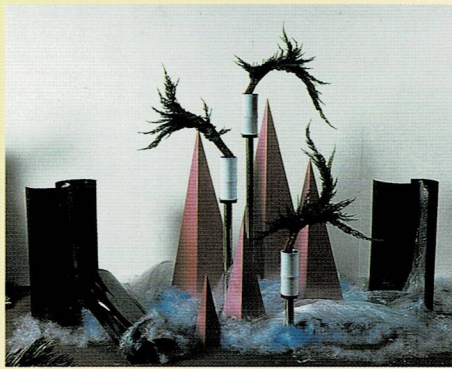
生駒 粹眞



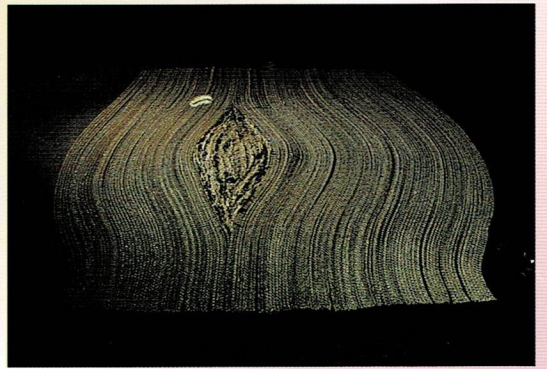
和田 俊雪



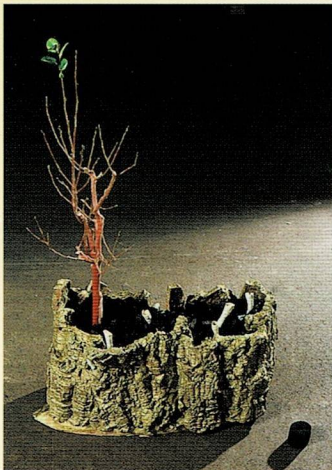
松山 勝甫



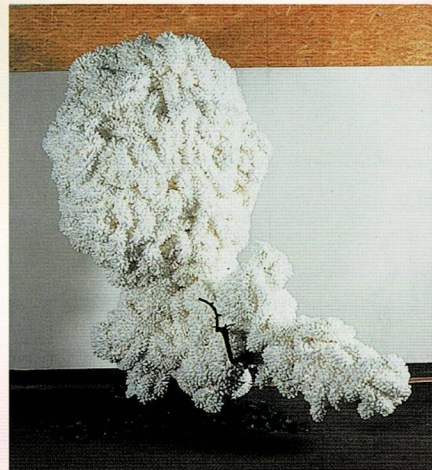
橋本 雅史



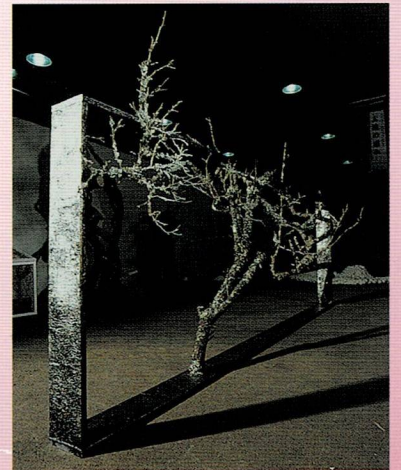
©のたね



渡邊 華靖



山内 瀬舟



福永 八千代